

富山大学人文学部令和4年度卒業論文

大学生が捉える「男らしさ」

～「男らしさ」の捉え方について富山大学の在校生を対象とする意識調査～

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース社会学分野
学籍番号 11910174
氏名 王凌飛

<目次>

第1章	問題関心	3
第2章	先行研究	4
第1節	男らしさの構成	4
第2節	男らしさの形成過程	5
第3節	男らしさの測定尺度	5
第3章	調査	6
第1節	調査概要	6
第2節	調査方法	6
第3節	調査項目	6
第4章	調査結果の要約	11
第1節	回答者の属性	11
第2節	回答者の経験	13
第3節	社会的望ましさと「身体的な強さ」に関する項目について	14
第4節	「個性」と「豪快さ」と「精神的強さ」に関する項目について	17
第5章	成長過程による影響の比較分析	20
第6章	考察	23
第1節	「社会的望ましさと「身体的な強さ」に関する項目について	23
第2節	「個性」と「豪快さ」と「精神的強さ」に関する項目について	23
第3節	まとめ	24
参考文献		25
質問文		26

第1章 問題関心

警視庁の調査により、男性による犯罪の案件数が女性による犯罪の案件数と比べたら、圧倒的多かった。令和1年のデータによれば年間の刑法犯での検挙者 32 万人のうち 79%は男性だった。一方で、大山（2004）によると 1998 年以降、全国の自殺者は年間 3 万人を超え続けているが、女性より男性が多く存在し、七割以上は男性である。

この現象の背景には、男性特有の脅迫的に他人に対する「**支配・優越志向**」と、悩みや不満を自己の心の中に押しとどめようとする「**感情の抑制傾向**」という傾向があるのではないかと考えられる（多賀 2002）。これらの研究をはじめ、これまでは成人の男性を対象とする研究が多いが、価値観や世界観が形成する最も重要な青年期における大学生を中心とする研究が欠けている。

よって本研究では大学生が捉えている「男らしさ」について究めるため、男性に特有な二つの傾向に着目し、本格的な社会参加への過渡期である富山大学の学生を対象として、アンケート調査を行った。

第2章 先行研究

ここで、男らしさを構成する要素を調査している先行研究を取り上げる。ここであげる先行研究は第4章の分析で今回の調査結果と比較していく。男らしさはどのような要素で構成されているのかという観点で先行研究を見ていくと、二つ要素が取り上げられた。それが「支配・優越志向」「感情の抑制傾向」である。

第1節 男らしさの構成

日本における男性性研究の第一人者である多賀太は、男らしさと呼べるような男性特有の代表的な心理傾向について、「支配・優越志向」と「感情抑制」という二つ傾向があり、この二つ傾向は家族、学校、生活環境など、乳少期以来男性たちが置かれてきた様々な生活環境によって形成されたものだと主張する。

・支配・優越志向

男性は、男性集団の中で、競争に勝つこと、他人に優越することを自尊心の基盤とすることを学び、それによって男としてのアイデンティティを形成していく。また、先行研究でふれた男性による犯罪について、他者を自らの意思に従わせたり優位に立つための手段としての脅しや暴力であると捉えることができる。このような男性特有の心理傾向として他者に対する支配・優越志向がある。（多賀、2006）

・感情の抑制傾向

伊藤公雄によれば、1993年から95年の3年間に新聞でいじめによる自殺と報道された中高生の自殺のケースが27件あったが、そのうち女の子は4名だけで、残りのすべて、つまり8割以上が男の子であった。一方で、「いじめ電話相談」に電話をかけてくるのは圧倒的に女の子だということから、成人のみならず子どもにおいても、男は他人に悩みを打ち明けず死を選んでいく傾向にあることが推測される。このように男性には自身の感情について抑制する傾向が見られる。（多賀、2002）

第2節 男らしさの形成過程

本節は男らしさの形成に影響する要因には何かという観点で先行研究を見ていく。

・家庭教育による影響

子どもが期待されている行動をとった場合(女の子が女らしい行動をする)、親は子供に対してほめたりするが、期待されてない行動をとった場合(男の子が女らしい行動をする)、親は叱ったりするといったように、子どもの性別によって親の言動が異なることも報告されている(伊藤 2001)。

このように人びとが認識する男らしさや女らしさから逸脱する言動は、男らしくない、女らしくないと批判の対象となり、「男らしさ」や「女らしさ」と表現される性別的役割意識は、成長過程に強く影響を受けている可能性があると考えられる。

・学校環境による影響

家庭のみならず、学校環境における学業、スポーツなどの公認された競争活動、集団内での人気、見た目の良さ、けんかの強さなどの非公認的競争活動は男子ではなく女子も参加している。しかし、女性にとって、それらの競争に勝ち抜くことが褒められてもそのことが「女らしさ」として評価されるわけではないのに対して、男性の場合は、それが直接「男らしさ」に結びつけられるという点で、男女両者にとって「競争」の意味は異なるを考える。このような男性にとっての「競争」の経験は男らしさの形成に影響する一つの要因であると言える。(多賀、2002)

第3節 男らしさの測定尺度

大石・北方(2012)は「現代日本における男らしさの測定尺度の作成」、「男性役割観についての考えが性別や年代によって異なるのかの検討」の2点を目的として予備調査と本調査を行った。予備調査では「現代日本における男らしさの測定尺度の作成」のために行われた500名を対象に「あなたにとって今、「おとこらしさ」を表す言葉とは何か」、「あなたから見た「おとこらしい」人とはどんな人か」、「あなたにとって「おとこらしさ」の条件とは何か」の三項目について自由記述で調査をし分析した。その後予備調査で収集した186の現代の男性の特性を表すキーワードに対し「現代の男性にとって、次のような性質をもっていることはどの程度重要だと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。」という教示文を用い、各項目について、「男性」を1、「どちらかという男性」を2、「どちらかわからない」を3、「どちらかという女性」を4、「女性」を5として得点化した。本調査の分析によって作成された測定尺度は“社会的望ましき”、“見た目のよさ”、“個性”、“豪快さ”、“精神的強さ”の6つであった。

第3章 調査

第1節 調査概要

1. 調査の目的 本調査は、「男らしさ」について富山大学に在籍している男女大学生の捉え方を把握することを目的としている。
2. 調査対象 富山大学に在学している人
3. 調査方法 インタネットアンケート
4. 調査期間 2021年6月28日から実施開始、7月15日を締め切りとして終了する

第2節 調査方法

この調査は、講義の時間内に教員に委託し、2021年6月月末から7月中旬にわたり、二週間でインタネット調査をおこなった。各学部の男女（その他）それぞれ326名から回答を得た。アンケートの回答については、指導教員にお願いし、担当する授業で質問文URコードを展示していただいた手段と、グループメンバーに協力していただいた手段の二つがある。

第3節 質問項目

フェイスシート項目として、性別、所属、家族構成、家族の過去の勤務形態、などの5項目を尋ねた。

「男らしさ」についての質問項目は大塚 清恵（2013）の「男女間の諸問題に関する大学生の意識調査」を参考に作成した。各キーワードは同研究の5つの測定尺度に“身体的強さ”を加えた6つの測定尺度にそれぞれ該当するものである。各項目に対し「1男性」、「2どちらかという男性」、「3どちらともかわらない」、「4どちらかという女性」、「5女性」の5段階のリッカート法で調査を行った。それぞれの測定尺度、男らしさを表すキーワード、質問項目については以下のとおりである。

男らしさを表すキーワード

・社会的望ましさ

【落ち着きがある】【協調性がある】【人望がある】【寛大である】【柔軟性がある】【余裕がある】【忍耐力がある】【人情がある】【けじめがある】【度胸がある】【社会経験が豊富である】【真面目である】【冷静である】【面倒見がいい】【自然体でいられる】【身体的に強い】【努力家である】【勇気がある】【紳士的である】【堂々としている】【率直である】【経済力がある】

・見た目のよさ

【スタイルがよい】【カッコいい】【若く見える】【スーツが似合う】【センスがよい】
【ファッションを楽しむ】【年齢を感じさせない】

・身体的な強さ

【競争力がある】【力持ちである】

・個性

【個性がある】【夢をもっている】【チャレンジ精神がある】【自己主張ができる】【こだわりをもっている】

・豪快さ

【硬派である】【たくましい】【力強い男気がある】【豪快である】【何でも受け止められる】

・精神的強さ

【弱音をはかない】【弱みを見せない】

・社会的望ましさ

Q1-1. あなたは学校の学級委員など重要な役割にふさわしい人は男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】

Q1-2. あなたはリーダーシップがある人は男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】

Q1-3. あなたは誰よりも努力していることがあるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【努力家である】

Q1-4. あなたは学校のテストの成績を見せ合うのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【努力家である】【勇気がある】

Q1-5.あなたは学校のテストの成績を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【努力家である】【勇気がある】【自己主張ができる】

Q1-15.あなたは常に自分に満足している人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。
【こだわりをもっている】

Q1-16.先輩が異性の後輩を、二人きりでの食事やお酒に誘う人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。【チャレンジ精神がある】【自己主張ができる】

Q1-17.部活で後輩がミスをしたとき責任を取ってあげたくない人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。【寛大である】【忍耐力がある】【面倒見がいい】

Q1-18.よく人の面倒を見る人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【面倒見がいい】

Q1-19.自分の中には様々な可能性があると思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【個性がある】【夢をもっている】【チャレンジ精神がある】【自己主張ができる】

Q1-21.自分の判断や行動を信じることができる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】【こだわりをもっている】

Q1-22.あなたは喧嘩に負けたことを思い返してクヨクヨしてしまう人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。【豪快である】【柔軟性がある】【余裕がある】

Q1-24.人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組むべきと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【こだわりをもっている】

Q1-25.自分には誰にも負けないもの（こと）があると思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【こだわりをもっている】【真面目である】

Q1-26.自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【勇気がある】

Q1-27.自分のことは自分で決めたいと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】【こだわりをもっている】

Q1-28.自分の個性を大事にしたいと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】

Q1-29.相手に子ども扱いされると馬鹿されてる怒ってしまう人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【弱みを見せない】

Q1-30 クラスのためと思っているのに、提案が無視されたら怒りを抑えることができなくなる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】

Q1-31.あなたは男性は決断力と指導力がなければならないと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【力強い男気がある】

・身体的な強さ

Q1-6. あなたは学校の体力測定の成績を見せ合うのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】

Q1-7. あなたは学校の体力測定の成績を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】

Q1-8. あなたは筋肉の大きさを比べあうのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】【力持ちである】

Q1-9. あなたは筋肉の大きさを比べあって自分の筋肉の方が大きいとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】

Q1-10. あなたは友達やクラスメイトと腕相撲をするのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】【力持ちである】

Q1-11. あなたは腕相撲で勝つとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】【力持ちである】

Q1-12. あなたはよく喧嘩をするのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】

Q1-13. あなたは喧嘩で勝たとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【競争力がある】

・見た目のよさ

Q1-14. あなたはよくファッションを楽しむのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【ファッションを楽しむ】【かっこいい】

・個性

Q1-6. あなたは自分が嫌がらせを受けたとき、必ずやり返す人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか？【こだわりをもっている】

Q2-13. あなたは人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【自己主張ができる】

・豪快さ

Q2-2. あなたは家族や周りの人に感謝の言葉をよく言っている人は男性と女性どちらが多いと思いますか。【豪快である】

Q2-3. あなたは自分の素直な気持ちを他人によく話す人は男性と女性どちらが多いと思いますか。【力強い男気がある】

Q2-12. あなたは好きな人に気持ちを伝えられず、相手に言わせようとしている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【力強い男気がある】

Q2-14. 人の気持ちになることができる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【寛大である】【何でも受け止められる】

・精神的強さ

Q2-1. あなたは男性が泣くのをみると「男のくせに」と思っている人は男性と女性どちら

が多いと思いますか。【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-4. あなたは悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人は男性と女性どちらが多いと思いますか。【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-5. あなたは他人に弱音を吐くことができる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-7. あなたは自分のミスが指摘される時、よく不機嫌になる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-8. あなたは自分の感情を表に出さない人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。
【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-9. あなたは自分の弱みを見せない人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。
【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-10. あなたは何かあったとしても、黙っていても、恋人・家族・友人は分かってくれて
いると思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

【弱音をはかない】【弱みを見せない】

Q2-11. あなたは自分以外の人間にはできるだけ助けを求めてはならないと思っている人は
男性と女性どちらの方が多いと思いますか。【弱音をはかない】【弱みを見せない】

第4章 調査結果の要約

第1節 回答者の属性

Q0-1. 性別

性別	割合(%)
男性	39.9%
女性	58.8%
その他	1.3%

表 4 -1

今回の調査の回答者は合計 326 人、その性別による内訳は「男：130 人（39.9%）、女：192 人（58.8%）、その他：2 人（1.3%）」であった。

Q0-2. 学年

学年	割合(%)
一年生	67.2%
二年生	8.3%
三年生	13.5%
四年生	6.1%
五年生以上/大学院生	4.9%

表 4-2

Q0-2 の学年の結果について表 4 -2 に示すように、教養科目の授業で実施された調査の回数が多いため、一年生が 67.2%を占めている。

Q0-3. あなたが所属している学部を選んでください。

学部	人数	割合(%)
人文学部	113	35.76%
人間発達学部	35	11.08%
経済学部	23	7.28%
理工学部	8	2.53%
理工学部(研究科)	34	10.76%
工学部	37	11.71%
薬学部	25	7.91%
芸術文化学部	26	8.23%

芸術文化研究科	2	0.63%
都市デザイン学部	7	2.22%
生命融合科学教育部	1	0.32%
合計	316	100%

表 4-3

学部比率は表 4-3 に示すように、人文学部(35.76%)、人間発達学部(11.08%)、経済学部(7.28%)、理工学部(2.53%)、理工学部(研究科)(10.76%)、工学部(11.71%)、薬学部(7.91%)、芸術文化学部(8.23%)、芸術文化研究科都市デザイン学部(0.63%)、生命融合科学教育部(2.22%)であった。

Q0-4. あなたは何人家族ですか。

人数	割合(%)
二人	1.9%
三人	33.45%
四人	38.6%
五人	11%
六人	9.3%
七人	4.9%
七人以上	0.85%

表 4-4

表 4-4 から、三人家族、もしくは四人家族がいる人は合わせて 72.05%おり、四人家族と回答した人が 38.6%を占めており、一番多かったと分かった。

第2節 回答者の経験

Q0-5. あなたは以下のことについて言われたことがありますか。

選択肢は下記の通り：

Q0-5-A.男/女だからもっと勉強しなさい/勉強しなくてもいい

Q0-5-B.男/女だから泣いてはいけない/泣いてもいい

Q0-5-C.男/女だからもっと男の友達/女の友達を作りなさい

Q0-5-D.男/女だから男らしい/女らしい服装・身だしなみをしなさい

Q0-5-E.男/女だから男/女がやるスポーツをしなさい

Q0-5-F.男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい

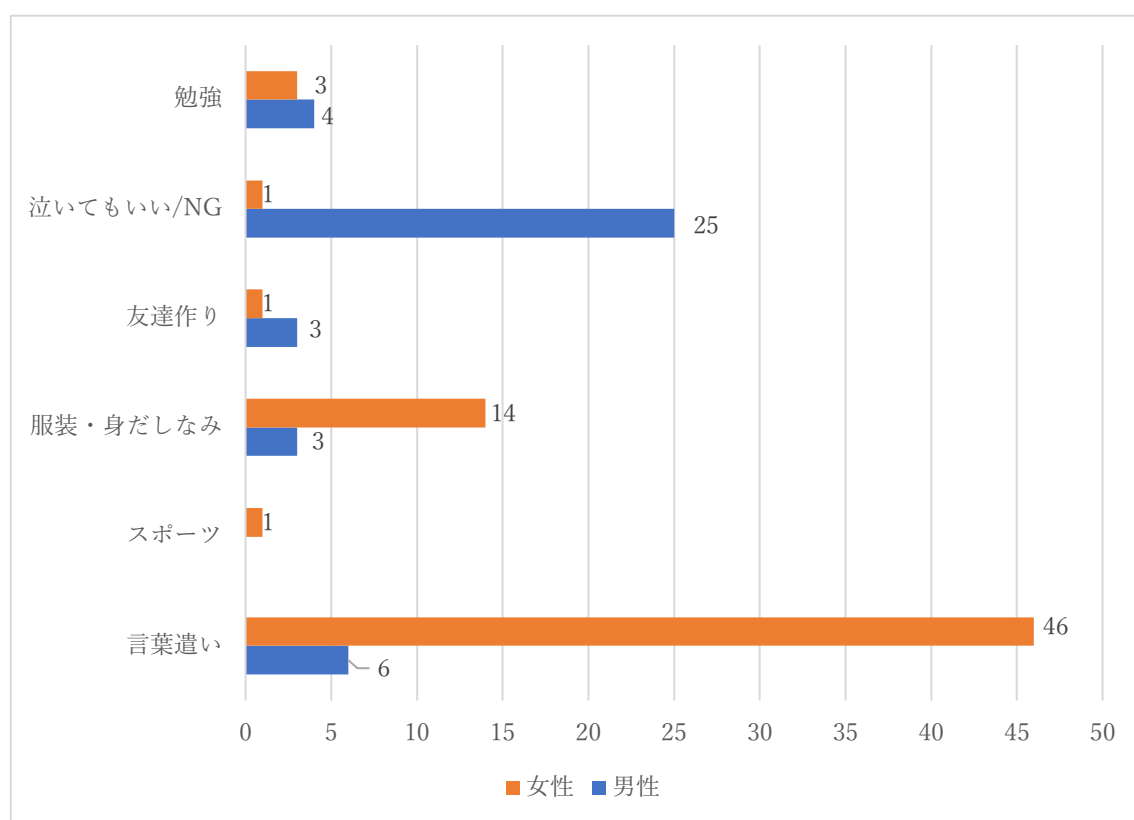


図 4-5

それらの選択肢について、一つでも言われたことがある人と言われたことがない人の割合が表 4-6 に示される。

出現値	人数	割合(%)
言われたことがある	107	32.83
言われたことがない	219	67.17
合計	326	100

表 4-6

Q0-5 では、今までに、回答者が過去の成長過程によるどういった影響を受けたのかを複数回答可で尋ねた。326 人の中 67.17% の人は何も言われていないが、結果を示した図 4-5 では、最も多い回答は「言葉扱い」について説教されたことがあるのであった。

この結果について男女別でみると、Q0-5-B「男/女だから泣いてはいけない/泣いてもいい」と Q0-5-F「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」については、男女間で大きな違いはみられた。

Q0-5-B「男/女だから泣いてはいけない/泣いてもいい」と言われたことがある回答者のうち、男女別でみると、男性のほうが女性より 24 人が高く。一方、Q0-5-F「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」と言われたことがある女性が 46 人で、男性が 7 人であった。

第 3 節 「社会的望ましさ」と「身体的な強さ」に関する項目について

「社会的望ましさ」と「身体的な強さ」に関する 52 項目に対する 362 名の回答を分析の対象とした。3 名は、全ての項目に対し「どちらかわからない」を選択していたため、信頼性の観点から除外した。

「どちらかわからない」の得点が 50%を超えている項目を除外し、男女それぞれ得点の間に差がある項目を分析対象とした。分析の便宜上、「男性」と「どちらかという男性」を「男性」、「どちらかわからない」をそのまま、「どちらかという女性」と「女性」を「女性」に統合した。

「社会的望ましさ」

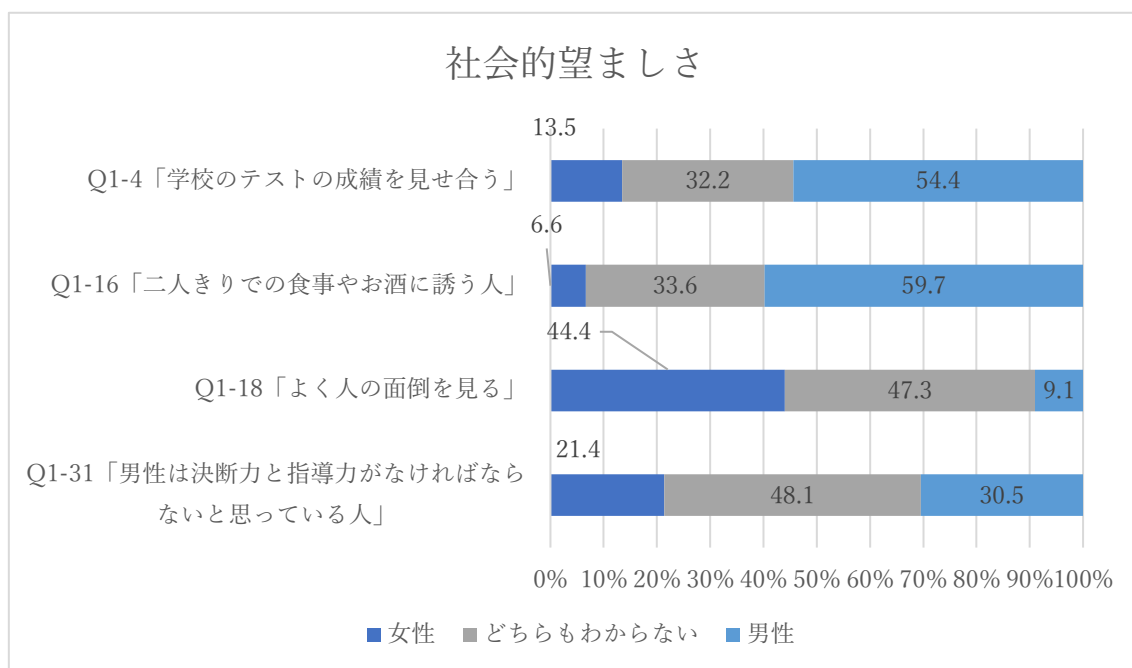


図 4-7

・ Q1-4

「男性」の回答率が 54.4%を占めている。男性と回答した人のうち、男性は 59.35%で女性に比べるとやや高いようであった。

・ Q1-16

「二人きりでの食事やお酒に誘う人」の結果については、「男性」と回答した人は 59.7%であり、そのうち、男性が 32.2%と低い割合であったとして、女性を二人きりでの食事やお酒に誘った事がない男性が多く存在していると考察している。

・ Q1-18

「男性」の比率は 8.88%に対しては、「女性」の比率それぞれは 43.42%だった。責任を取ることや面倒を見ることは女性の役割と捉えている回答者が多かったがわかった。

・ Q1-31

「男性は決断力と指導力がなければならないと思っている人」は「女性」と回答した人が 21.4%と低い割合であったが、「男性」と回答した人が 30.5%相対的に高い割合であった。「どちらかという男性」、「男性」と回答した人の中で、女性が 63.9%を占めている。女性は、男性よりも現代の男性に社会的に望ましいとされる特性をより求めている傾向が読み取れた。

Q1-4、Q1-16、Q1-18、Q1-31 については、回答者の男性の「社会的望ましさ」に対する考え方を尋ねた。

結果について図 4-7 の示すように、「男性」が多かったのは Q1-4「成績を見せ合う」、Q1-16「二人きりでの食事やお酒に誘う」、Q1-31「指導力がなければならない」の三項目であった。回答者がこれらの社会的な成功の要因を男らしさと結びつけていることが分かった。

一方、男女差をみたところ、Q1-18「よく人の面倒を見る」に対し、「女性」と回答した人が顕著に多く、44.4%を占めている。

「身体的な強さ」

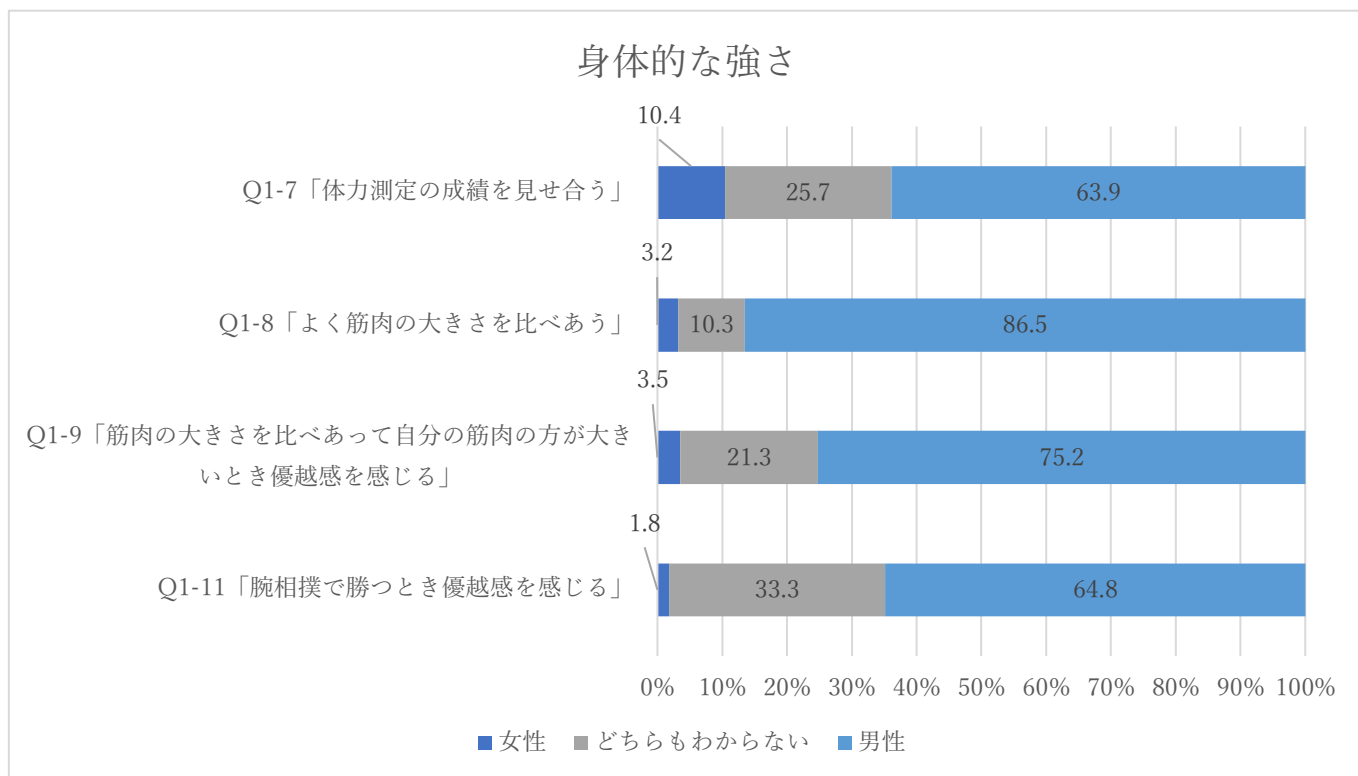


図 4-8

・ Q1-7

「体力測定の成績を見せ合う」のは 63.9%の学生が、「男性」を答えている。

・ Q1-8、Q1-9

仮説の通りに男女ともほぼ、「男性」と答えている。

・ Q1-11

「腕相撲で勝つとき優越感を感じる」は「男性」と回答した対象者が 64.8%と高い割合であった。

Q1-7「体力測定の成績を見せあう」、Q1-8「体力測定の成績を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じる」、Q1-9「筋肉の大きさを比べあって自分の筋肉の方が大きいとき優越感を感じる」、Q1-11「腕相撲で勝つとき優越感を感じる」の回答結果をまとめたところ、先行研究の通り、身体能力や身体的な競争によってもたらされた優越感は男らしさの形成にとって、欠かせない一部だと考えられていることが分かった。

第4節 「個性」と「豪快さ」と「精神的強さ」に関する項目について

「個性」

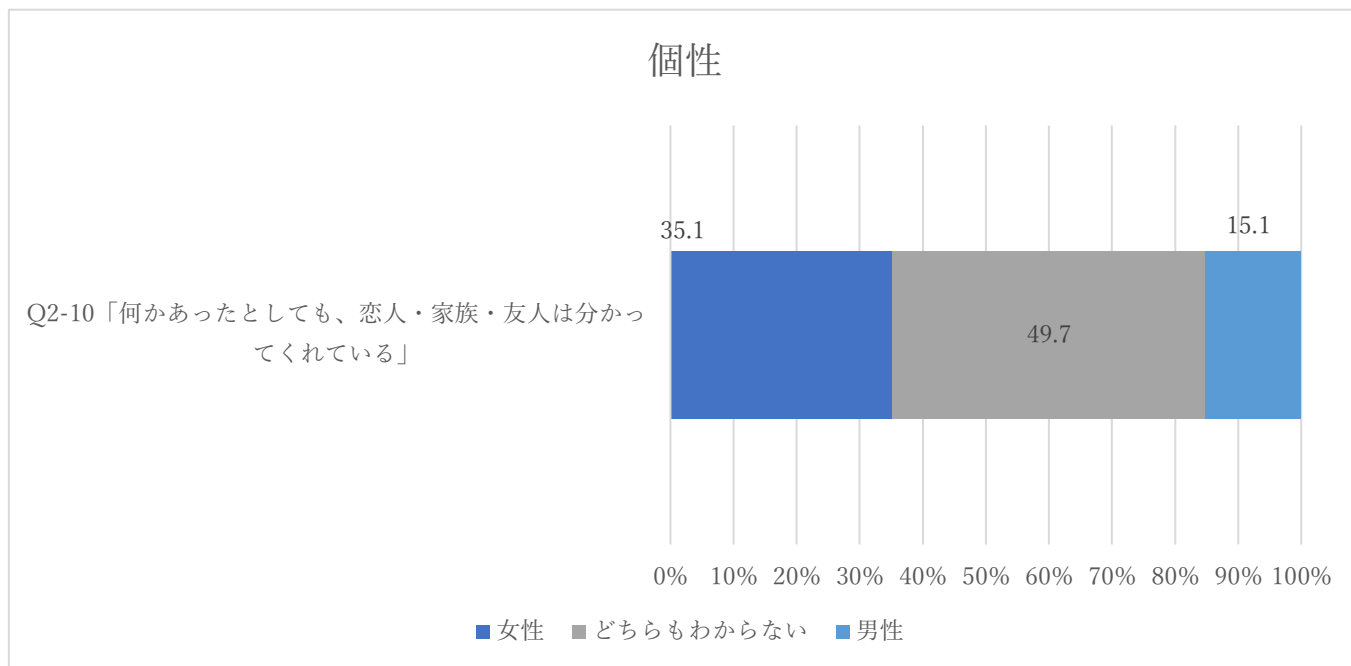


図 4-7

・Q2-10

「何かあったとしても、黙っていても、恋人・家族・友人は分かってくれている人」に関しては、「男性」と答えてた人は15.1%と相対的に低く、「女性」と回答した人は35.1%となっていることが挙げられた。

「豪快さ」

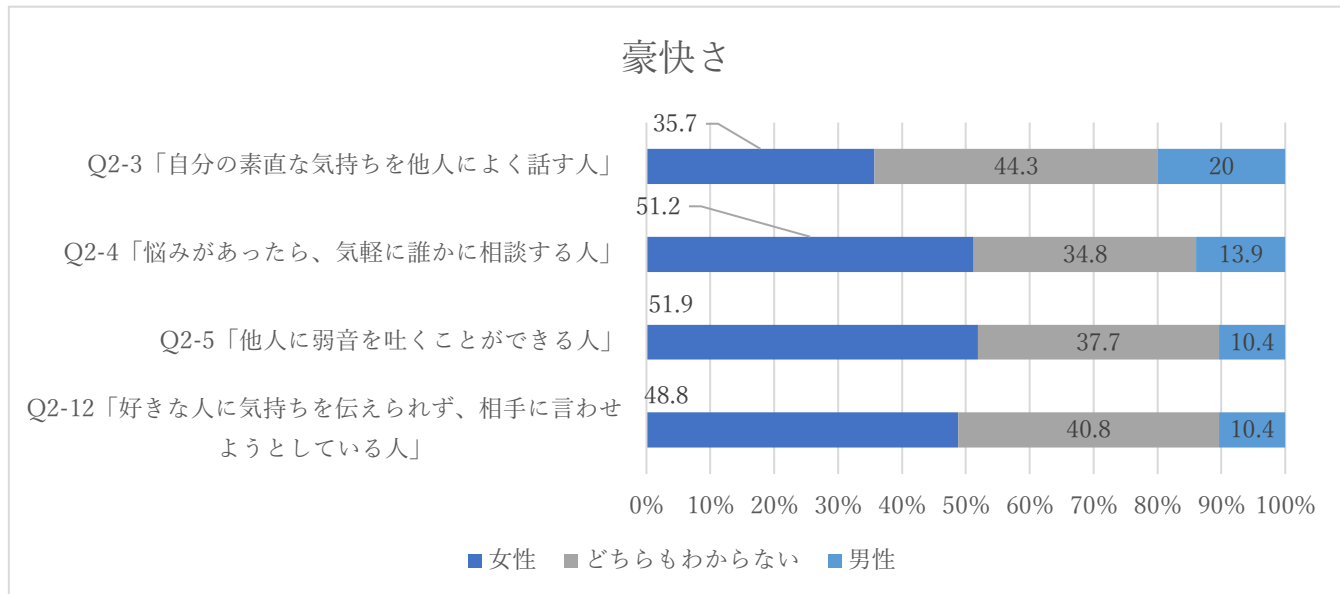


図 4-8

・ Q2-3

「自分の素直な気持ちを他人によく話す人」については、「男性」と回答した人が 20%と低い割合であり、「女性」と回答した人が 35.7%であった。

・ Q2-4

「悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人」は「男性」と回答した人が 13.9%を占めている。一方で、51.2%人が「女性」と答えている。

・ Q2-5

「他人に弱音を吐くことができる人」は「男性」と回答した対象者が 10.4%と低い割合であった。

・ Q2-12

「好きな人に気持ちを伝えられず、相手に言わせようとしている人」については、「男性」と答えてた人は 10.4%と相対的に低く、「女性」と回答した人は 48.8%となっていることが挙げられた。

「精神的強さ」

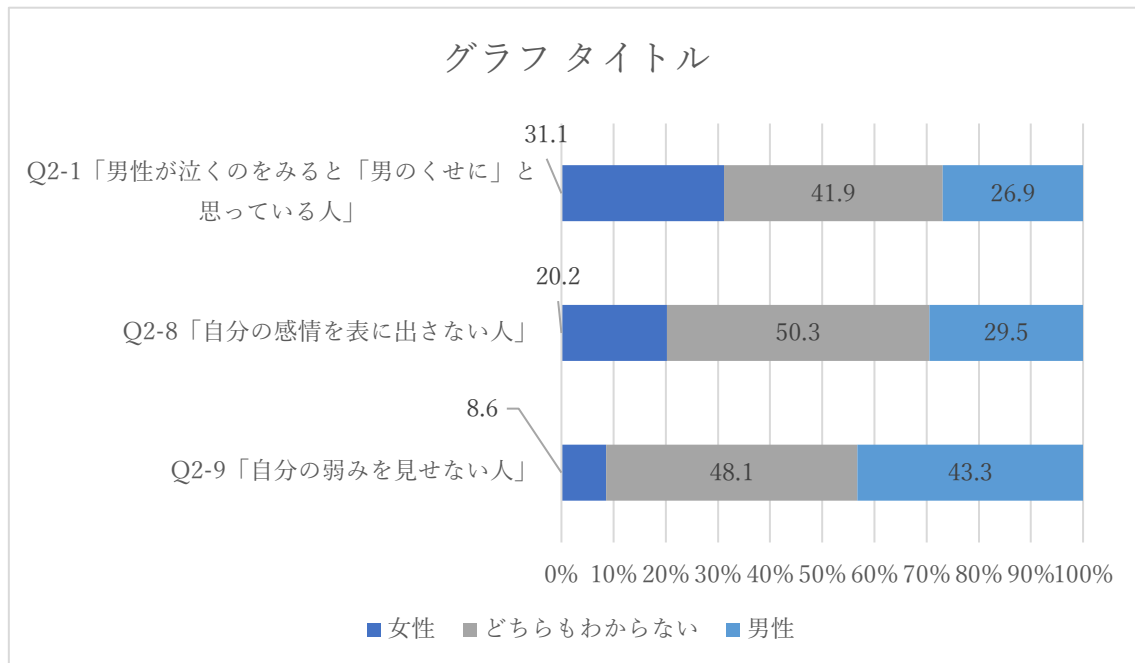


図 4-9

・ Q2-1

「女性」と回答した人が 31.1%と相対的に高い割合であった。「男だから泣いてはいけない」と思っている人は、女性が大勢いると考えられていると言えるだろう。こうした現実の背景には、女性は男性よりも男性に対し精神的な強さや忍耐強さに関する特性をより求めている傾向があると考察している。

・ Q2-8

「自分の感情を表に出さない人」は「男性」と回答した人が 29.5%と相対的に高い割合であり、「女性」と回答した人が 20.2%であった。

・ Q2-9

「自分の弱みを見せない人」は、「男性」と回答した人が 43.3%と高い割合であり、「女性」と回答した人が 8.9%であった。

第 5 章 成長過程による影響の比較分析

本章は調査結果に基づき、成長過程が回答者にどのような影響を与えるのかを究めるために、Q0-5「あなたは以下のことについて言われたことがありますか」の各選択肢と他の質問をクロス表で分析してみた。t 検定をおこなったところ、Q1-18 と Q2-4 以外は有意差がある項目がなかった。

・Q0-5「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」とQ1-18「よく人の面倒を見る人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか」のクロス表分析について

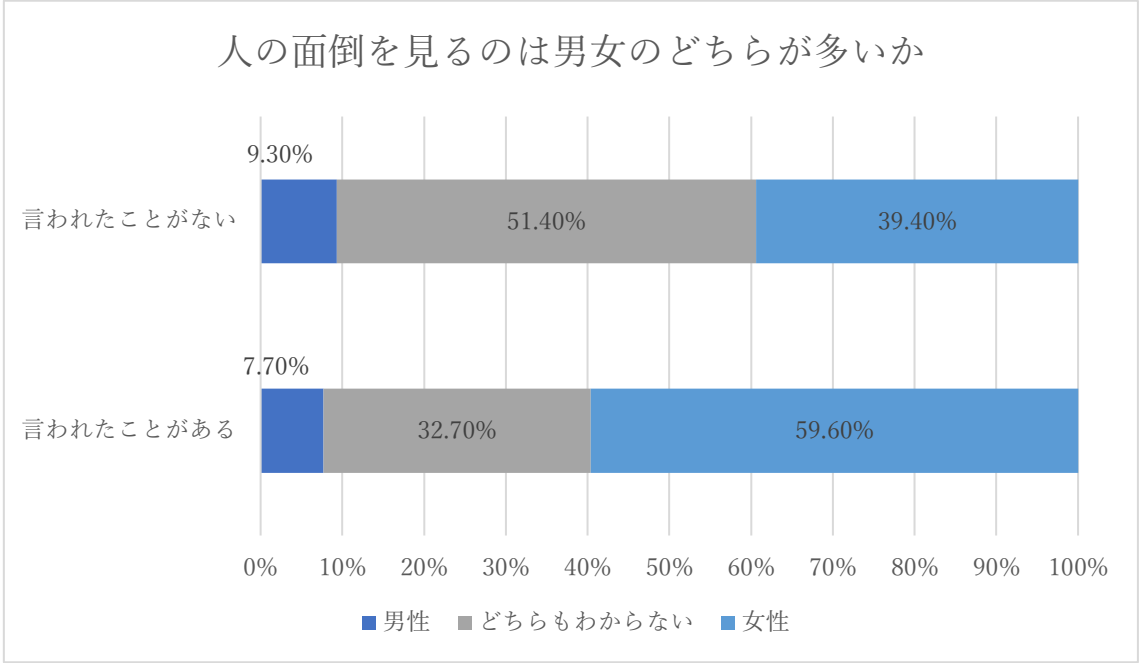


図 5-1

変数	出現値	「人の面倒を見るのは男女のどちらが多いか」			
		男性	どちらともわからない	女性	合計
言葉づかい	言われたことがない	24 (9.3%)	133 (51.4%)	102 (39.4%)	259
	言われたことがある	4 (7.7%)	17 (32.7%)	31 (59.6%)	52
合計		28	150	133	311

P<0.05

表 5-2

図 5-1 と表 5-2 はそれぞれ Q0-5「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」とQ1-18「よく人の面倒を見る人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか」の単純集計とクロス表である。

表 5-2 を見ると、「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」と説教されたことがある回答者のうち回答者において、Q1-18「よく人の面倒を見る人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか」で「女性」と回答した対象者が 59.6%と高い割合であった。「女性」と回答した回答者の割合は、説教されたことがない人より説教されたことがある人のほうが 20.2%高かった。

「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」と説教されたことがない回答者より説教されたことがある回答者のほうが女性性に関する特徴的な認識が見られ、世話を女性役割として捉えがちである。

・Q0-5「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」とQ2-4「あなたは悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人は男性と女性どちらが多いと思いますか」のクロス表分析について

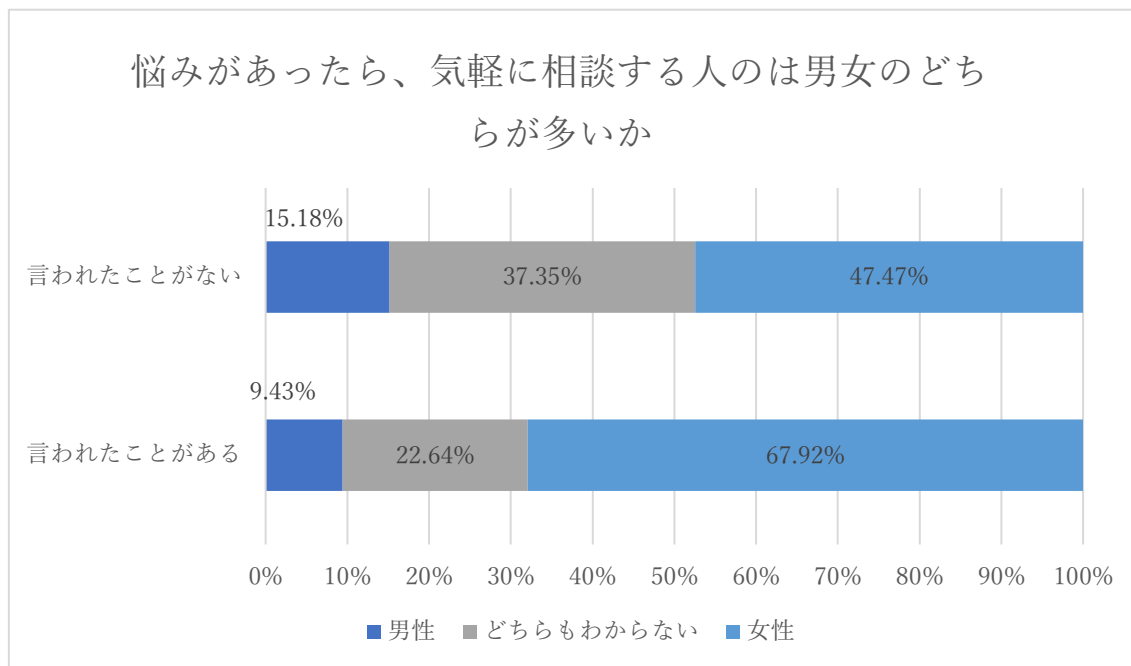


図 5-3

変数	「悩みがあったら、気軽に相談する人は男女のどちらが多いか」				
	出現値	男性	どちらもわからない	女性	合計
言葉づかい	言われたことがない	39 (15.18%)	96 (37.35%)	122 (47.47%)	259
	言われたことがある	5 (9.43%)	12 (22.64%)	36 (67.92%)	52
	合計	44	108	158	310

P<0.05

表 5-4

図 5-3 と表 5-4 はそれぞれ Q0-5「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」とQ2-4「あなたは悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人は男性と女性どちらが多いと思いますか」の単純集計とクロス表である。

「男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい」と言われたことがあるかどうかに関係なく、Q2-4「あなたは悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人は男性と女性どちらが多いと思いますか」について「女性」と回答している人は多かった。

第6章 考察

本章では、インターネットアンケート調査のデータを分析し、現在の男女大学生が捉えている男らしさを先行研究と比較したうえ、相違点も明らかにしたい。

第1節 「社会的望ましさ」と「身体的な強さ」に関する回答結果について

「社会的望ましさ」と「身体的な強さ」に関する質問項目に対し、ほとんどの回答者が「男性」と回答し、大石・北方(2012)とほぼ変わらない結果になっている。「男性」という回答頻度の高い内容としては、図3-7と図3-8に示されるようにQ1-4「成績を見せ合う」、Q1-16「二人きりでの食事やお酒に誘う」、Q1-31「指導力がなければならない」などの**社会的望ましさ**に関する項目、Q1-7「体力測定の成績を見せあう」、Q1-8「体力測定の成績を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じる」、Q1-9「筋肉の大きさを比べあって自分の筋肉の方が大きいとき優越感を感じる」、Q1-11「腕相撲で勝つとき優越感を感じる」などの**身体的な強さ**に関する項目がそれぞれあった。

競争力や弱さを露呈しないようにすること(「努力家である」「勇気がある」「チャレンジ精神がある」「自己主張ができる」「力強い男気がある」)の重要性を男性がより強く認識している傾向は、男性がこれらの特性を男らしさと結び付けて考えていることが原因だと考えられる。多賀が男子集団の中で競争に勝つこと、他人に優越することを自尊心の基盤にすることを学び、それによって「男らしさ」を形成していくと述べているが(多賀、2002)、今回の研究からもこの考察を支持することができる。

一方、「女性」と多く回答している項目としては、Q1-18「人の面倒を見る」のような「支配・優越志向」が観察できる項目があげられている。「よく人の面倒を見る」の結果に関して、第5章の図に示されるとおり、男性より女性の方が積極的に責任を取る姿勢が窺えた。

第2節 「個性」と「豪快さ」と「精神的強さ」に関する回答結果について

「個性」と「豪快さ」と「精神的強さ」に関する項目の回答結果について第4章の第4節に示されるように、先行研究を証明できる項目としては、Q2-3「自分の素直な気持ちを他人によく話す人」、Q2-4「悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人」、Q2-5「他人に弱音を吐くことができる人」のような豪快さに関わる項目、Q2-8「自分の感情を表に出さない」、Q2-9「自分の弱みを見せない」のような精神的な強さ関わる項目があげている。

一方、図とに示されるとおり、Q2-1「男性が泣くのをみると「男のくせに」と思っている人」に関しては、「女性」の割合はかなり多くなっている。よって、女性の方が「男らしさ」に対して泣かないことを含めていると考えられていることがわかった。こうした感情の抑制的な「男らしさ」を女性に押し付けられているという考えは男性特有の生きづらさの原因につながっているだろう。解釈は異なるが、同様に、Q2-10「何かあったとしても、黙っていても、恋人・家族・友人は分かってくれていると思っている人」とQ2-12「あなたは好

きな人に気持ちを伝えられず、相手に言わせようとしている人」も、それぞれ「女性」の数が「男性」を上回っている。このことから、女性も感情を抑制し、自己情報を隠蔽しようとする傾向があると考えられていることが分かった。この結果は女性にも感情抑制傾向がある可能性を示している。

第3節 まとめ

先行研究では、男らしさについて、「支配・優越志向」と「感情抑制」という二つ傾向があり、この二つ傾向は家庭環境、学校環境など、乳少期以来男性たちが置かれてきた様々な生活環境によって形成されたという結果が示されており、「男らしさ」に対する考え方は成長環境に影響を与えられることが窺えた。

本論文では男らしさを構成している「支配・優越志向」と「感情の抑制傾向」にスポットを当て、「時代の変化につれて、男女大学生がそれぞれ捉えている「男らしさ」が変化してくのか」について考察してきた。まず、先行研究（大石 北方、2002）に基づき、現在の大学生が捉えている男らしさを調べるため、新たな質問項目の作成を試みた。そして、成長環境が男らしさの形成に影響を与えることをクロス表分析により明らかにした。

だが、今回作成した質問は、男女大学生がそれぞれ捉えている「男らしさ」がどのような概念で構成されているかという目的に沿うことができたが、質問が回りくどい、回答を誘導することなどの問題点があった。

参考文献

伊藤裕子、2001、「性差覚醒状況におけるジェンダー・ステレオタイプ」

『心理学研究』(72) (443-449)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy1926/72/5/72_5_443/_article/-char/ja/

大山 治彦 2004「男性の生き方とジェンダー 無縁社会から見えてくるもの」

『ジェンダー教育の未来を開く』(15)168-169

https://aue.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=7345&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1

大石きおり 北方春子 2012 年「現代日本における男らしさの測定尺度」

『文化学園大学紀要. 服装学・造形学研究』(44) 63-73

https://bunka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=530&item_no=1&page_id=13&block_id=21

大塚 清恵、2013、「男女間の諸問題に関する大学生の意識調査」

『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文社会科学編』(56) 103-121

[extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfndmkaj/https://core.ac.uk/download/pdf/144562396.pdf](https://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfndmkaj/https://core.ac.uk/download/pdf/144562396.pdf)

多賀太 2006「男らしさの社会学」 67-69

『学校で作られる男らしさ』

多賀太 2002「男らしさの形成と学校環境」

『現代教育研究月報』 20-12

https://kansai-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5789&item_no=1&page_id=13&block_id=21

質問文

Q0-1.あなたの性別を選んでください。

Q0-2.あなたは何年生ですか。

Q0-3.あなたが所属している学部を選んでください

Q0-4.あなたは何人家族ですか。

Q0-5.あなたは以下のことについて言われたことがありますか

男/女だからもっと勉強しなさい/勉強しなくてもいい

男/女だから泣いてはいけない/泣いてもいい

男/女だからもっと男の友達/女の友達を作りなさい

男/女だから男らしい/女らしい服装・身だしなみをしなさい

男/女だから男/女がやるスポーツをしなさい

男/女だから男らしい/女らしい言葉づかいをしなさい

・支配・優越志向

Q1-1. あなたは学校の学級委員など重要な役割にふさわしい人は男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-2. あなたはリーダーシップがある人は男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-3.あなたは誰よりも努力していることがあるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-4.あなたは学校のテストの成績を見せ合うのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-5.あなたは学校のテストの成績を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-6. あなたは学校の体力測定の結果を見せ合うのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-7. あなたは学校の体力測定の結果を見せ合って、自分の成績の方が良いとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-8. あなたは筋肉の大きさを比べあうのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-9. あなたは筋肉の大きさを比べあって自分の筋肉の方が大きいとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-10. あなたは友達やクラスメイトと腕相撲をするのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-11. あなたは腕相撲で勝つとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。【

Q1-12. あなたはよく喧嘩をするのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-13. あなたは喧嘩で勝たとき優越感を感じるのは男性と女性でどちらの方が多いと思

ますか。

Q1-14. あなたはよくファッションを楽しむのは男性と女性でどちらの方が多いと思いますか。

Q1-15. あなたは常に自分に満足している人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-16. 先輩が異性の後輩を、二人きりでの食事やお酒に誘う人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。

Q1-17. 部活で後輩がミスをしたとき責任を取ってあげたくない人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。

Q1-18. よく人の面倒を見る人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-19. 自分の中には様々な可能性があると思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-21. 自分の判断や行動を信じていることができる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-22. あなたは喧嘩に負けたことを思い返してクヨクヨしてしまう人は男性の方が多いですか女性の方が多いですか。

Q1-24. 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組むべきと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-25. 自分には誰にも負けないもの（こと）があると思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-26. 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-27. 自分のことは自分で決めたいと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-28. 自分の個性を大事にしたいと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-29. 相手に子ども扱いされると馬鹿されてる怒ってしまう人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-30. クラスのためと思っているのに、提案が無視されたら怒りを抑えることができなくなる人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q1-31. あなたは男性は決断力と指導力がなければならないと思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

・感情の抑制傾向

Q2-1. あなたは男性が泣くのをみると「男のくせに」と思っている人は男性と女性どちらの方が多いと思いますか。

Q2-2. あなたは家族や周りの人に感謝の言葉をよく言っている人は男性と女性どちらが多いと思いますか。

Q2-3. あなたは自分の素直な気持ちを他人によく話す人は男性と女性どちらが多いと思いますか。

Q2-4. あなたは悩みがあったら、気軽に誰かに相談する人は男性と女性どちらが多いと思いますか。

Q2-5. あなたは他人に弱音を吐くことができる人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-6. あなたは自分が嫌がらせを受けたとき、必ずやり返す人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-7. あなたは自分のミスが指摘される時、よく不機嫌になる人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-8. あなたは自分の感情を表に出さない人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-9. あなたは自分の弱みを見せない人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-10. あなたは何かあったとしても、黙っていても、恋人・家族・友人は分かってくれていると思っている人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-11. あなたは自分以外の人間にはできるだけ助けを求めてはならないと思っている人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-12. あなたは好きな人に気持ちを伝えられず、相手に言わせようとしている人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-13. あなたは人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。

Q2-14. 人の気持ちになることができる人は男性と女性どちらの方が多くと思いますか。